東　日　本　大　震　災
岩手民医連・盛岡医療生協合同
対策本部ニュース
2011年４月７日（木）NO.14

◆大船渡市支援継続中～民医連チームで支援継続中

現在、民医連のチームは大船渡市の赤崎地区と蛸の裏地区を担当しています。拠点は、赤崎漁村センター。130名の人が避難しています。医務室での診療、避難所の方々の心のケア、他の５箇所の避難所への往診も行っています。

４月４日～伊藤DR、川口保健師に続き、４月５日から北海道民医連からの支援と、切れ目なく大船渡での支援が継続されています。今後も、全日本民医連の援助を受けながら、北海道と北東北の民医連にも支援を頂き、沿岸部への支援を継続していきます。

◆大船渡市支援チームから聞きました！
～急遽リハビリ支援を実施（４月３日）

廃用予防のため急遽リハビリ支援を実施するために派遣された、リハビリ科の吉田主任（PT)、成ヶ澤主任（OT）から、支援の内容などを聞きました。二人は、４月２日夜に菊地事務長とともに現地入りし、３日に各避難所や往診先での支援活動に取り組みました。

―自由に動き回ることが不自由になりがちな避難者生活で、被災前と比べて、生活環境は悪化しています。そんな中で、高齢者（と言っても比較的若い・・・60代の方も含む）は、生活不活発状態。ほとんど寝転がっていて動かない方、歩いていないから、歩けなくなってしまっていたり、ふらつくようになった方が多数見られました。緊張からくる肩こりや緊張性頭痛の症状を訴える方、腰痛や膝痛の方も多かったです。

―往診チームに同行し、DRが必要と判断した方に対してリハビリを提供してきました。また、漁村センターや各避難所で、即席の体操を実施しました。様子を見ていて気になる方に対し、個別にリハビリを。トレーニングプログラムを提供し、自分たちがいない間も継続出来るように心がけました。

―今までの支援チーム（北海道民医連チーム）が、下地をつくっており、活躍することができたんだと思います。医療の支援を安定して行ったことで、介護・リハも必要になったんじゃないかなと。また、１日一緒に過ごす中でも、すごく前向きにいろんなことを検討していて、素晴らしいチームだと思いました。

―リハビリスタッフとして、何が出来るか判断をしに行ったのですが、リハの必要性を実感できました。歩けなかった人が、歩けるようになった！寝返りが出来るようになった！痛みが和らいだ！みなさんからの反応は良かったと思います。予防を行うことはとても意義があります。リハビリのスタッフが来た！と歓迎してくれた避難所もありました。結果が求められ、自分の技術が試されているように感じたり、精神的な負担は大きかったです。しかし、週に１度だけでも自分たちに出来ることがある、そう感じました。どうやって継続して支援に入るか、どうやってリハ科で支援を支えるか、難しい点もありますが、部署全体の課題として取り組んでいきたいと考えています。